

兵庫労働局長と
働き方改革推進企業との
意見交換会

【ベストプラクティス企業】
株式会社鍵田組

概要

令和7年11月13日、兵庫労働局長（金成 真一）は、11月の「過重労働解消キャンペーン」期間の取組の一環として、働き方改革の推進に向けて積極的な取組を行っている「ベストプラクティス企業」として、株式会社鍵田組、また、業界からは一般社団法人兵庫県建設業協会に労働局にお越しいただき、意見交換を行いました。

当日は、鍵田組から鍵田佳成（かぎた よしなり）代表取締役、加藤菜摘（かとう なつみ）営業部建設ディレクターに、また、建設業協会から三木健義（みき たけよし）会長、内藤正秀（ないとう まさひで）事務局次長に、ご対応いただき、働き方改革の取組状況、業界の課題等についてお話を伺いました。



株式会社鍵田組

株式会社鍵田組について

所在地：尼崎市崇徳院2丁目55番地

事業内容：土木工事・建築工事
(民間工事、公共工事)

労働者数：42人（現在）

労働時間：8時～17時
(平均残業時間：10時間／月)



株式会社鍵田組

～取組概要～

働き方改革に取り組むきっかけ

弁護士をしていた鍵田社長は、9年前に家業を継ぐために鍵田組に入社しました。鍵田社長は、他の業界では事務部門が書類作成を行っているのに、建設業では現場代理人が現場作業終了後に、残業しながら不慣れなパソコンを使って、書類作業を行っていることが当たり前になっていることに疑問を抱きました。



【写真】鍵田社長

働き方改革に向けた取組

1 建設ディレクターの導入

現場代理人を補佐するために、事務作業を別の社員（加藤さん）に行ってもらうこととしました。しばらくして、鍵田社長は、加藤さんが行っていた業務は、建設ディレクターが行う業務と類似していることに気づき、加藤さんに建設ディレクターの資格取得を勧め、建設ディレクターとして、活躍してもらうことになりました。

建設ディレクターとなった加藤さんは、現場事務所に常駐する形で、書類作成作業全般を集中的に行っていきます。

建設ディレクターの導入により、現場代理人の業務負担が大きく軽減され、現場代理人は工事の施工管理等に集中することができるようになりました。これに伴い、品質の向上や社員の創意工夫、発注者からの要望に対するスムーズな対応、近隣住民からの工事に対する理解など、さまざまな効果につながっています。

業務内容

○主な書類作成業務

- 施工計画書
- 施工体制台帳
- 建退共受払い
- 使用材料確認願
- 産廃搬出管理
- 出来形管理
- 品質管理
- 履行報告書
- 各種許可関係

など…

○その他業務

- 積算、入札関係
- 写真管理
- DXアプリの運用
- 図面の作成・修正
- 3Dデータの作成

など…

○広報活動

- Instagram
- X(旧Twitter)
- Youtube
- 動画編集
- イラストレーター
(当社マコットキャラクターの制作)

など…



興味のある事に積極的に取り組ませて
いただいている！

図：(株)鍵田組資料より

2 ICT化による生産性向上

建設ディレクター導入により現場代理人の労働時間が削減されると、鍵田社長は、今度は事務部門の残業が多いことに気づき、事務部門の労働時間の削減に取り組むことにしました。

そこで、事務部門の生産性を高めるため、手作業で行っていた作業のICT化を図ろうと考え、実行に移しました。

請求書管理システムの導入により、請求関連作業をオンライン上で完結させたことで、作業に係る手間やミスの削減、紙や郵送コストの削減等につながっています。

労働時間、給与計算などの労務管理、決裁・承認などをオンラインで可能にするクラウドサービス群のソフトウェアを利用することで労働時間の削減を実現しています。

工事現場においても、最新の技術、建設システムを活用することで、現場の見える化や情報の共有化が図られ、工程管理がスムーズになり手戻りやミスの減少につながっています。

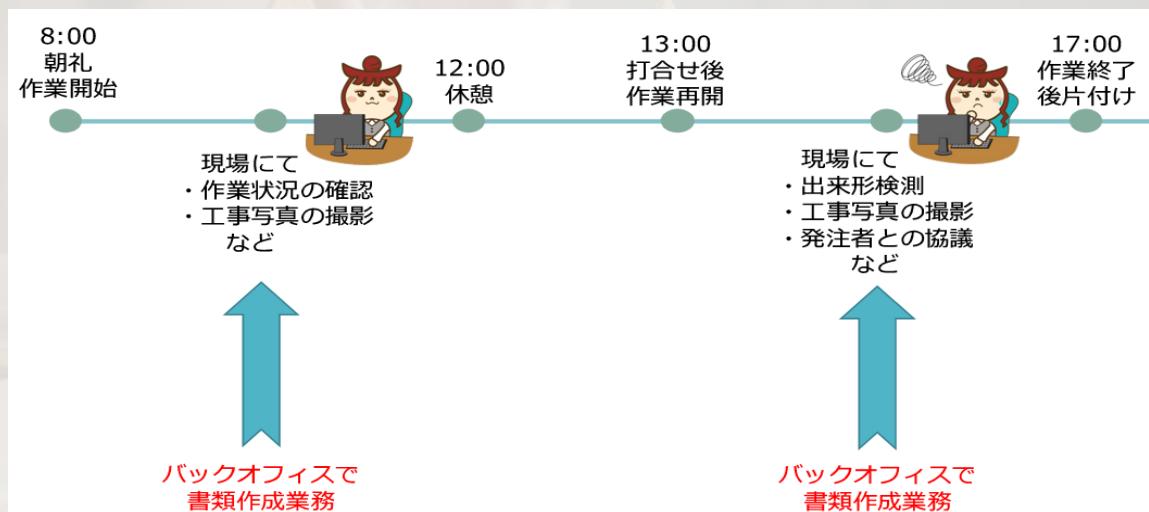
		
Digital Billder 請求書管理システム オンライン上で完結できる。 <ul style="list-style-type: none">・請求処理の手間、ミスを削減・紙や郵送が不要でコスト削減・電帳法、インボイス制度に対応・現場と事務の連携がスムーズ	ジョブカン 勤怠管理や給与計算など、人事・労務を効率化できる。 <ul style="list-style-type: none">・勤怠集計や給与計算の手間削減・ミス防止、自動化で正確な処理・労務時間の見える化・法改正にも自動対応で安心	Shachihata Cloud 電子印鑑で社内外の承認、決裁オンライン化できる。 <ul style="list-style-type: none">・承認スピード向上・電帳法対応で安心運用・[現場↔本社]移動時間を削減し時間外労働の削減に繋がる

図：(株)鍵田組資料より

3 建設ディレクター（加藤さん）の1日

加藤さんは、現場事務所があるときには、以下のスケジュールで業務を行っています。その際には、毎週2日間をノー残業デーに設定、現場全体の労働時間の削減も図っています。

また、現場がないときには、会社の事務所でインスタやユーチューブを作成するなど、広報業務を行っています。掲載のマスコットキャラクターは、加藤さんが作成した「まるたつくん」と「くみちゃん」で、鍵田組の広報活動で活躍しています。



図：(株)鍵田組資料より



まるたつくん



くみちゃん

(株)鍵田組HPより



【写真】加藤さん

働き方改革を進めるに当たって苦労されたこと

業務のICT化の導入にあたり、社員の中にもICT化の費用対効果に疑問を抱く役員、また、これまでの作業方法が変わることや機器の操作・使用方法に不安を持つ社員から理解を得るために苦労をされたということです。



鍵田社長は粘り強く役員の方々に説明するとともに、建設ディレクターからICT機器の使用方法を社員にレクチャーしてもらうことで、徐々に効果もあらわることにより理解につながりました。

今後の課題

1 若手職員の育成

労働時間の削減を達成したものの、依然として現場は、工期が厳しい状況にあり、若手職員の育成に充てる時間をどのように確保するかが課題ということです。

2 社員に対する評価

労働時間の長短で賃金を支払うことになっている現制度の中で、効率的に仕事を進める社員と時間をかけながらも成果を出している社員の評価のバランスのとり方が難しいということです。

一般社団法人兵庫県建設業協会

～業界組織の取組・課題～

取組の実施

- 建設業の魅力の発信（3Kから新3K+Kへ）
※新3K（給与・休暇・希望）+K（カッコいい）
- 働き方改革への取組として、適正工期見積り運動や土日一斉閉所等を促進するための呼びかけの実施に加え、労働局と連携し発注者へ協力要請
- 県内の建設ディレクターで構成された「ひょうご建設ディレクターズフォーラム」の活動を支援。働き方改革と女性の入職定着を推進 等



【写真】内藤事務次長（左）三木会長（右）

ひょうご建設ディレクターズフォーラム



兵庫県建設業協会員企業のうち、建設ディレクターとして活動している社員が企業の枠を超えて活動
自らのスキルアップを通じ、県内建設業の働き方改革のレベルアップにつなげる（令和6年12月発足）

活動内容

- ・交流会、意見交換会、研修会
- ・「女子高校生との交流会」開催
- ・「建設産業女性定着支援ネットワーク」（国交省）への参画と情報発信
- ・SNSによる活動等の発信



第2回交流会（R7.7）オンライン

活動状況

- ・発足式キックオフフォーラム：令和6年12月
- ・第1回交流会：令和7年2月
- ・第2回交流会：令和7年7月（オンライン）

会員：43名（令和7年11月現在）
リーダー：高島菜央（株）香山組



女子高校生との意見交換会（R7.12）

図：（社）兵庫県建設業協会資料より

現状の課題と対応

- 労働時間の長時間化の要因として、①発注者への書類作成業務が多い（主に公共工事）、②工期設定が短い（主に民間工事）、③人手不足がある。
- 労働時間短縮のため発注者へ配慮を求めたり、イメージアップのため戦略的広報（イメージ動画作成等）や担い手確保（小・中・高校生を対象とした現場見学ツアーの実施等）に精力的に取り組んでいる。

戦略的広報



施工管理仕事紹介動画【総合編】 : 施工管理仕事紹介動画【建築編】 : 施工管理仕事紹介動画【土木編】



担い手確保



まちづくり業界研究大作戦



建設ふれあいまつり



インフラバスツアー



建設機械の乗車体験

意見交換を終えて

弁護士から家業を継がれた鍵田社長は、会社の雇用環境に疑問を持たれ、斬新な視点で建設ディレクター導入、積極的なICT化に取り組まれ、時間外労働の大幅な削減など雇用の環境改善に大きな成果を上げられました。こうした取組は、採用活動にもつながり、4年連続新規採用が実現するなど、同社社員の平均年齢は38歳という若さにつながっています。

また、建設ディレクターに抜擢された加藤さんも、仕事のやりがいをさらに見いだされ、各種資格を取得されるなど活躍されています。

一方で、少子高齢化が進み人材不足が顕在化する中、特に建設業では人材不足が厳しい状況にありますが、迅速な災害対応、若年層・女性に向けた担い手確保、労働時間削減に向けた様々な働き方改革への取組など、建設業の魅力を積極的に発信されているということでした。

建設業における雇用環境の改善には、当該事業者はもとより発注者の協力が必要不可欠ですが、適正な工期設定について、一部の建築にかかる公共工事、民間の補修工事ではいまだ厳しい工期となっているというお話を伺いましたので、引き続き、労働局では関係機関と連携しながら適正な工期、工事金額での発注に向けて働きかけを行ってまいります。

県内の建設事業場の皆様には、今回の意見交換を参考にしていただき、労働時間の削減をはじめとする働き方改革に取り組んでいただきますよう、よろしくお願ひいたします。



【写真】

前方左から順に
鍵田組 鍵田社長
金成局長
兵庫県建設業協会 三木会長
後方左から順に
北川主任監察官
藤井監督課長
鍵田組 加藤さん
岡本労働基準部長